

## 【論文】

# 青年期の母娘に生じる葛藤に関する研究 —ジェンダー観に着目して—

智田 琴音 (岩手大学大学院総合科学研究科)

奥野 雅子 (岩手大学人分社会科学部)

### I はじめに

一般的に、母と息子の仲が良いことは「マザコン」と揶揄される一方、母と娘の間に距離がないことは、むしろ望ましいことと考えられている (信田, 2016)。しかし、一見仲が良くして幸せそうな母娘関係に見られる娘の被支配感や依存性、息苦しさが指摘されており (高木・柏木, 2000; 信田, 2016; 高石, 1996)、母との親密な関係における娘の葛藤がうかがえる。特に親からの自立が最も中心的な発達課題となる青年期には (平石, 2014)、親密な母娘関係が揺らぎ、娘の葛藤が強まることが推測される。このような葛藤への向き合い方を模索する上で、青年期女性が母との関係の中で何を感じ、考えているかといった葛藤の現状を明らかにすることには意義があると考えられる。

そこで本研究では、母娘関係に深く関連すると考えられるジェンダー観に着目し、青年期の母娘に生じる葛藤について検討する。

### II 問題と目的

#### 親密な母娘関係の影響

母と娘は、他の組み合わせの親子関係と比較して距離が近く、親密であるとされてきた (渡邊, 2003; 水本, 2018)。特に近年、娘側の経済的自立の遅延に伴う母に対する経済的利得の高まり、母側の長男相続性の崩壊による娘に対する精神的支え・世話役割期待の増加といった背景から、母と娘の距離は更に縮まっている (柏木, 1998; 宮本・岩上・山田, 1997)。

これまで、親密な母娘関係は娘の心理的適応にポジティブな影響を与えるとされてきた。例えば、成人女性を対象とした研究では、母への親密的感情の高さが、自尊感情の高さ及び抑うつ傾向の低さに関連していることが示されている (北村, 2008)。また、田口・成田 (2018) では、母娘間の信頼関係が高く、母を支えたいと強く思っている娘は、アイデンティティ確立と自尊感情が高いことが示唆された。

一方で、親密な母娘関係には、特有のネガティブな側面があることも指摘されている。例えば、母との距離が近い中で娘の自己統制感が低い場合、娘の自立と適応は抑制されることが明らかにされている (水本・山根, 2010)。また、娘が母に向ける心遣いは、過剰適応的に母に愛情を与えているものであり、互いに信頼し合える対等な関係として与えているのではないとの指摘もある (水本, 2017)。臨床事例において、親密な母娘関係に見られる娘の被支配感や依存性、息苦しさが指摘されていることから (高木・柏木, 2000; 信田, 2016; 高石, 1996)、一見良好に見える母娘関係の背景には様々な葛藤がある可能性が考えられる。

## 母娘関係とジェンダー

母娘関係を捉えるうえでジェンダーは重要な視点として挙げられる。ジェンダーとは、女性と男性にまつわる社会文化的な定義であり、人間を外側から性別分化させる社会的要因としての性、すなわち、社会的に形成される「女らしさ」「男らしさ」といったものを指す(青野・森永・土肥, 2019)。

ジェンダーの視点から母娘関係を捉えた研究では、娘は性同一性を獲得し、大人の性役割を学ぶため母親に同一化する一方で、個としてのアイデンティティを手に入れるためには母からの同一化から脱却しなければならないというアンビバレントな状況に置かれることが指摘されている(Chodorow, 1978; 橋本, 2000)。また、母と娘は同じ女性同士であるために身体的にも共通点が多く、娘はライフサイクルにおける性的な事柄を通して比較・干渉されることで、母からの束縛や嫉妬にさらされやすいこと(朝倉・信田, 2016)、娘側だけでなく母親も娘に同一化し、娘に「自分の生き直し」を求めることが指摘されており(國吉, 2015)、母娘の葛藤には、ジェンダーが同じであるために生じる比較や干渉、同一化の問題が潜在的に絡んでいると考えられる。さらにその根底には、ジェンダーに対する考え方、すなわちジェンダー観のずれがあることが推測される。

### 母娘関係に対する父の影響

父母関係と親子関係の関連について、父母関係が良好(否定的)になれば、親子関係も良好(否定的)になるとするスピルオーバー仮説と、夫婦が決裂、もしくは葛藤状態になることで夫婦関係において十分な欲求の充足が得られない場合に、親が子どもとの関係においてそれを補おうとする働きを論じた補償仮説がある。この2つの仮説について、父母関係と父子関係はスピルオーバー仮説を支持する一方で、父母関係と母子関係は補償仮説を支持する可能性が示唆されている(板倉・長谷川, 2012)。特に、父母関係と母娘関係については、母親が夫との関係において満たされないものを埋め合わせようとする心理的な作用によって、娘を自分の理解者として位置づけていること(高木・柏木, 2000)、父親が子どもに関わろうとせず、忙殺され孤立する母親を支えようとしないことが母親と子どもの密着度を高め、問題を長引かせる一つの要因となることが指摘されている(信田, 2017)。

### 本研究の目的

これまでの研究から、親密な母娘関係にはポジティブな側面が見られる一方で、娘の自立が抑制されるといったネガティブな側面があることが明らかにされている。また、母娘関係の親密さとそこで生じる葛藤にはジェンダーの問題が潜在的に絡んでいることが推測されるが、母娘関係を捉える上でジェンダーの視点に着目した実証的な研究は不足している。加えて、父、母、娘の三者関係は連動しており、母娘関係を捉えるうえで父の影響も考慮することは重要といえる。そこで本研究では、青年期女性を対象に調査を行い、母娘関係に生じる葛藤の現状を量的、質的に検討することを目的とする。その際、母娘のジェンダー観の差異に着目し、父の影響も併せて検討する。

### Ⅲ 方法

#### 調査方法

##### 調査時期と調査対象者

2022年9月に青年期女性102名(有効回答数102名,  $M = 22.35$ ,  $SD = 1.27$ )を対象に調査を実施した。

##### 質問紙の構成

- ① フェイスシートで性別、回答者自身と母親の年齢、母親の就業形態、母親との同居、家族構成を尋ね、15項目からなる平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) (鈴木, 1994) に「全然そう思わない(1点)」から「全くその通りだと思う(5点)」の5件法で回答を求めた。15項目中11項目が逆転項目であり、得点が高いほど性役割について平等志向的な態度を有し、低いほど伝統志向的な態度を有していることを示す。回答者本人の性役割態度(以下、「D\_SEARA-S」とする)、回答者が認知する母の性役割態度(以下、「M\_SESRA-S」とする)をそれぞれ測定した。
- ② 理想の人生のタイプについて尋ねた。まず、回答者本人が望む人生のタイプを専業主婦コース、再就職コース、両立コース、DINKSコース、非婚就業コースの中から1つ選択してもらった。そして、その選択に対する父母からの影響の程度を「全くない(1点)」から「非常にある(7点)」の7件法で、具体的な影響の内容を自由記述で回答を求めた。次に、母が回答者に望む人生のタイプ、父が回答者に望む人生のタイプそれぞれについて、回答者本人に選択を求めた。
- ③ 「母親とジェンダー観の違いを感じることはありますか。」(以下、「ジェンダー観差異程度」とする)について「全くない(1点)」から「非常によくある(10点)」の10件法、「母親とジェンダー観の違いを通して対立することはありますか。」について「全くない(1点)」から「非常によくある(7点)」7件法で回答を求めた。加えて、母親とのジェンダー観の違いを感じる場面とその時の対応について自由記述で回答を求めた。
- ④ 母親が持っている女性性についてどう考えるか、⑤母親との関係の中で考えていること、感じていること、⑥父親が回答者と母親の関係について考えている、感じていると思うことのそれぞれについて、自由記述で回答を求めた。なお、⑥については、「『父親がどう感じている、考えていると思うか』というあなたの考えをお答えください。」と注意書きを添えた。

**分析** まず、量的分析として、以下の①～③の分析を行なった。① D\_SESRA-S と M\_SESRA-S の差を検討するため、対応なしの  $t$  検定を行なった。② (a) 母親の就業形態による理想とする人生のタイプに対する母親からの影響の程度の差を検討するため、母親からの影響を従属変数、母親の就業形態を独立変数として一元配置分散分析を行なった。(b) 理想とする人生のタイプに対する母親からの影響と父親からの影響の差を検討するため、対応ありの  $t$  検定を行った。③ (a) 同居/別居によるジェンダー観差異程度の差を検討するため、ジェンダー観差異程度を従属変数、母との同居/別居を独立変数として対応なしの  $t$  検定を行った。(b) 母親の就業形態によるジェンダー観の差異の程度の差を検討するため、ジェンダー観の差異の程度を従属変数、母の就業形態を独立変数として一元配置分散分析を行った。次に、質的分析として、自由記述により回答を求めた項目に対する回答を KJ 法 (川喜田, 1967) によって分類した。その際、

Narabi (佐々木, 2020) を使用した。

#### IV 結果

Cronbach の  $\alpha$  係数を算出したところ、D\_SESRA-S ( $\alpha=.795$ ), M\_SESRA-S ( $\alpha=.869$ ) ともに十分な内の一貫性が確認されたため、それぞれ尺度を構成する項目の得点を算出し、尺度得点とした。

##### 量的分析

- ① D\_SESRA-S 得点が M\_SESRA-S 得点より有意に高かった ( $t(101)=8.30, p<.001$ )。
- ② 「理想の人生のタイプ」の選択に及ぼす影響について、(a) 母親の就業形態による有意な差は認められなかった。(b) 母親からの影響の得点が父親からの影響の得点より有意に高かった ( $t(90)=2.27, p<.05$ )。
- ③ ジェンダー観差異程度について、(a) 同居群と別居群で有意な差は認められなかった。(b) 母親の就業形態による有意な差は認められなかった。

これらの結果を Figure 1 と Figure 2 に示す。

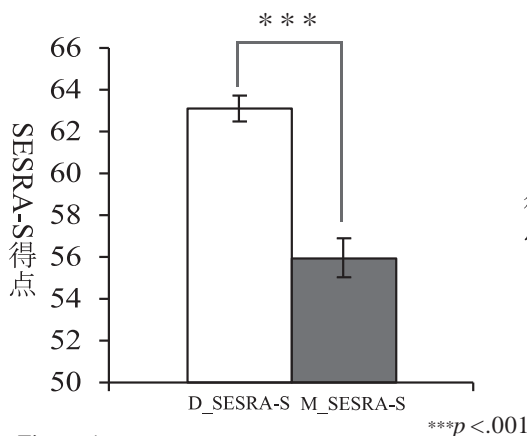


Figure 1

D\_SESRA-S と M\_SESRA-S の平均

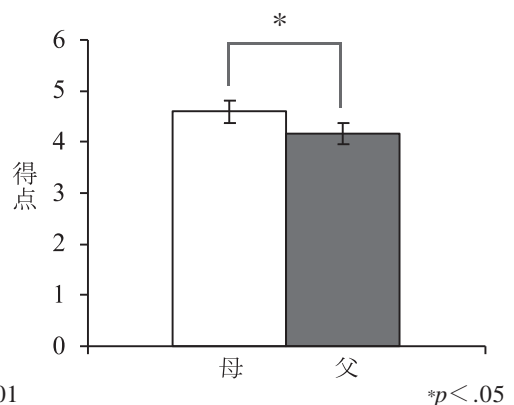


Figure 2

理想の人生のタイプに対する影響の程度の平均

##### 質的分析

自由記述の項目については、分析の結果を一部抜粋して報告する。まず、理想の人生のタイプにおける母からの影響について尋ねた項目への回答は、その内容から「ロールモデルとしての母」、「価値観の伝達」の2つに大別された。この結果を Table 1 に示す。

母親とのジェンダー観の違いを感じる場面については、その内容から「女性の生き方に関する価値観」、「ジェンダー・センシティブィティの感度」、「ジェンダー・ダイバーシティの許容度」の3つに大別された。この果を Table 2 に示す。

Table 1 理想とする人生のタイプにおける母からの影響についてのカテゴリー分類 (N = 78)

大カテゴリー	カテゴリー	内容	数
ロールモデルとしての母	母への同一化	漠然と母と同じライフコースを想定している(3)/母の姿を見て、自分もそうなるだろうと思う(1)/母親が働いているため、専業主婦という選択肢を考えたことがない(1)/一番近くにいる参考になれるのが母であるため、自然と同じような道を選ぶ気がする(1)/自分も母と同じようにした方が良いのではと思う(1)	46
	理想像としての母	充実している母の姿(2)/仕事と家庭を両立する姿(5)/自分を大切にしつつ家庭も重視する姿勢(1)/働く母への憧れ(1)/仕事と家庭を両立する姿への憧れ(1)/母にしてもらったように自分もできるだけ子どもの側にいたい(4)	
	母の生き方に触発される	仕事と家庭を両立する母を見て自分にもできると感じている(5)/仕事と家庭を両立する母に刺激を受けて自分も頑張ろうと思った(3)	
	母の生き方に視野を広げられる	母から結婚・子育ての魅力を聞いて子育てをする人生も良いと思った(1)/母の働く姿を見たり就職・転職の話を知りたりして生き方の一つの形を知った(1)	
	母の経験から学ぶ	仕事と家庭両立の工夫について教えてもらった(1)/離婚後母が経済的に苦労しているのを見てきたため、自分は経済的に自立していきたいと思うようになった(1)/母のライフコース選択の理由を聞いて考えている(1)/母に仕事と子育ての両立の大変さを教えられている(1)/結婚して良かった話を聞かないため、離婚後を考えて経済的に自立していきたいと思うようになった(1)/母のキャリアが自分のキャリアを考える基準となる(1)	
	母と同じ生き方の回避	仕事の多忙さを目の当たりにして自分は違う道歩みたいと思った(1)/資格がなく働いた経験もないことに対する母の後悔を感じるため、自分は仕事をしたい(1)/伝統的性別役割をこなす母の姿に疑問を感じ、自分は仕事をしたいと思った(3)/母を反面教師にする(2)/母親のような人生を送りたくない(1)/仕事が忙しい母に構ってもらえなかった経験から、仕事をすることに子どもは望まない(1)	
母の価値観の内在化	性別にとらわれない母の価値観の受容	性別に縛られずやりたいことをやるという考え(1)/働く母を見て女性も働くものという価値観になった(1)/専業主婦を薦めず、キャリアを重視する(1)/自由にさせてくれる(1)/結婚や出産に対してプレッシャーをかけてこない(1)	10
	母の伝統的性別役割観の受容	早めに結婚・出産すべきという考え(2)/子どもはいた方がいいという考え(1)/女性は子育てに集中すべきという考え(1)/子育ては女性中心にした方がいいという考え(1)	

Table 2 母親とジェンダー観の違いを感じる場面についてのカテゴリー分類 (N = 54)

大カテゴリー	カテゴリー	内容	数
女性の生き方に関する価値観	結婚に関する価値観	結婚が女性の人生における幸せという母の価値観を感じる時(2)/夫婦別姓の話題が出たとき(2)/母から結婚をしつつ勧められたとき(1)/母に「家庭を持つのが当たり前」と言われたとき(1)/家庭を持つ時期についての話題が出たとき(1)	16
	子育てに関する価値観	子育てについて話をする時(3)/子育てで女性の人生における幸せという母の価値観を感じる時(2)/「女性は女性にしかできない出産・育児をすべき」という母の考えを聞いたとき(1)	
	女性の働き方に対する考え方	仕事ができない女性は結婚すれば良いという母の考えを聞いたとき(1)/夫婦どちらの仕事を優先するかという話題が出たとき(1)/母に「子どもを持つことを考えた仕事選びをすべき」と言われたとき(1)	
ジェンダー・センシティブティの感度	ジェンダー的な期待	女の子らしくすることを母から求められたとき(8)/家事について兄弟より口うるさく言われたとき(1)	21
	性に関する事柄への敏感さ	男の人と一緒に遊ぶことに対して母が過剰に反応するとき(1)/露出が多い服を着て母に注意されたとき(1)/防犯について兄弟より強く注意するよう母から言われるとき(1)/母に「生理用品は隠すべき」と言われたとき(1)	
	ジェンダー・ステレオタイプを受容度	母に「男性には勝てないし、やっかまれるよ」と言われたとき(1)/母に「家事育児は全て女性がやる時代を生きてきた」と言われたとき(1)/母が専業主婦を受け入れていると感じるとき(1)/家事に関する話をするとき(1)/自分が違和感を感じる家族の言動に母は違和感を感じてなさそうとき(1)	
	ジェンダー・スキーマの強度	母が「女の子らしい/男の子らしい」という言葉を使うとき(1)/母が「女の子らしさ/男の子らしさ」を重視するとき(1)/母が「女なのに/男なのに」と言うとき(1)	
ジェンダー・ダイバーシティの許容度	ジェンダーレスな自己表現に対する抵抗感	母が男性のメイクに対して否定的な反応をしたとき(4)/母が男性の女性的な振る舞いに対して嫌悪感・違和感を出したとき(3)/女性が男性的に見えることに対して母が抵抗感を示したとき(1)	19
	セクシュアルマイノリティに対する価値観	LGBTQに対する母の固定的な見方を感じたとき(3)/母のLGBTQに対する戸惑いを感じたとき(2)/母がLGBTQを身近なものとして捉えていないと感じたとき(2)/同性婚についての話題が出たとき(1)/LGBTQに関する話題が出たとき(1)/BLを受け入れられない母を見たとき(1)/母がLGBTQに対して非好意的な反応を示したとき(1)	

母親との関係の中で考えていること・感じていることについては、まず「母親との関係性の捉え方」、「母親とのコミュニケーションのとり方」、「母親に対する感情」、「母親に対するイメージ」の大きく4側面に大別された。さらに、母親との関係性の捉え方については、「現在の関係性」、「理想の関係性」、「関係性の中での気づき」、「一体感」、「個別性の認識」、母親とのコミュニケーションのとり方については、「母に対する関わり方」、「母の自分に対する関わり方」、母親に対する感情については、「ポジティブ

感情」、「ネガティブ感情」、「アンビバレントな感情」、「母に対する要望」、「今後の母娘関係に対する思い」、母親に対するイメージについては、「ポジティブ・イメージ」、「ネガティブ・イメージ」にそれぞれ分類された。この結果を Table 3 に示す。

Table 3 母娘関係で感じていることについてのカテゴリー分類 (N = 102)

大カテゴリー	カテゴリー	内容	数
母との関係性の捉え方	現在の関係性	友達のような関係(5)/姉妹のような関係(2)/良好な関係(7)/信頼関係がある(1)/仲が良い(5)/一緒にいて心地よい関係(2)	22
	理想の関係性	友達みたいな関係が理想(1)/対等な関係が理想(1)/信頼関係を維持したい(1)/適度な距離感を保ちたい(1)/現状維持したい(1)	5
	関係性の中での気づき	適度に距離をおいた方がうまくいく(4)/離れて暮らしてから母の偉大さに気づいた(1)/大人になってから母への理解が深まった(2)	7
	一体感	自然と母の真似をしたり同じ方法を選ぶ(1)/母の期待の内面化(1)/強い血のつながりを感じる(1)/似ている(1)/影響力の大きさの実感(2)	6
	個別性の認識	個別性の受容(5)/個別性に対する諦念(2)/価値観の差異認知(8)	15
母とのコミュニケーションのとり方	母に対する関わり方	価値観が合わない話題は避ける(1)/将来について話す(1)	2
	母の自分に対する関わり方	母の考えを押し付けられる(2)/尊重してくれる(4)/自由にさせてくれる(3)/干渉しない(2)	11
母に対する感情	ポジティブ感情	大好き(5)/感謝(5)/尊敬(5)/私のことを一番に考えて、信頼してくれているのが嬉しい(1)/理解が得られると嬉しい(1)	18
	ネガティブ感情	嫌い(2)/不満(1)/鬱陶しい(1)/理解が得られないしんどさ(1)/ブレッシャーを感じる(1)	6
	アンビバレントな感情	母の自己犠牲に対して有難いが負担にも思う(1)/感謝しているが、心配や幸せを願う気持ちが重荷に感じることがある(1)	2
	母に対する要望	社会との関わりを持ってくれた方が家族への依存が少なくて良い(1)/拠り所を増やすべきと感じる(1)/価値観をアップデートする意識を持ってほしい(1)/母に個別性を認識してほしい(1)/もう少し自由にさせてほしい(1)/同居を強制されたくない(1)	6
今後の母娘関係に対する思い	思いやり	大切にしていきたい(1)/寂しい思いはさせたくない(1)/対話を大切にしたい(1)	6
	懸念	今後の関係性に対する不安(1)/母を失うことへの恐怖(1)/対立したくない(1)	6
母に対するイメージ	ポジティブ・イメージ	良き理解者(4)/自慢の母(1)/キャリアモデル(1)/理想の母親像(2)/頼りになる存在(3)/支えてくれる存在(2)/大切な存在(2)/良き相談相手(6)/大黒柱(1)/刺激をくれる存在(2)	24
	ネガティブ・イメージ	過保護(2)/過干渉で心配性(1)/承認欲求が強い(1)/社会における自分の価値を過小評価している(1)/人生の反面教師(1)	6

父親が母娘関係について考えている、感じていると思うことについては、その内容から「母娘関係に対する認知」、「母娘関係に対する感情」、「母娘関係に対する父の関わり」の3つに分類された。この結果を Table 4 に示す。

Table 4 娘が考える「父が母娘関係をどう捉えているか」についてのカテゴリー分類 (N = 78)

カテゴリー	内容	数
母娘関係に対する認知	良好(9)/仲が良い(18)/共依存(3)/非常に親密な関係(1)/適度な距離感(1)/父娘より良い関係(1)/仲の良さを肯定的に捉えている(1)/強い信頼関係がある(1)/よく話し合う関係(1)/楽しそう(1)/良好ではない(1)/似たもの同士(1)/母娘は違うタイプと認識している(1)/過保護(2)	42
母娘関係に対する感情	羨ましい(1)/母子密着に伴う疎外感(5)/満足(1)/母娘関係が落ち着いたことに対する安心(1)/仲が良ければ良い(1)/喧嘩になるとめんどくさい(1)/娘は母に対しても生意気(1)/何も感じていない(5)	16
母娘関係に対する父の関わり	仲介役(2)/見守り(1)/無関心(3)	6

## V 考察

### 母親と娘のジェンダー観の差異

本研究の結果より、娘は母親の方が伝統的性役割観を有するというジェンダー観の差異を認知していることが示唆された。一方、男女共同参画社会に関する世論調査 (内

閣府, 2019) においては、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に対する意識」において反対の割合を年齢別で比較したところ、18歳～29歳で67.6%、50～59歳で64.7%と青年期の子ども世代とその親世代とで大差ないことが示されている。この相違の要因について、母親の社会一般に対するジェンダー観と娘に対して表明するジェンダー観が異なることが本調査の結果に反映された可能性が考えられる。つまり、社会一般的な「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えには反対の立場を取りながらも、娘に対しては仕事より家庭を重視することを勧めるといったダブルスタンダードな態度が推測される。内閣府(2019)では、性別役割分担に関する単一項目の質問が用いられているが、結婚や出産の有無など、より母親自身の人生にも深く関わってくるような事柄となれば、“社会一般に対するジェンダー観”と“娘に対して求めること”の乖離はより大きくなることも予想される。しかし、社会一般に対するジェンダー観ではなく、母娘の二者関係の中で現れるジェンダー観を測定する尺度は現状存在しない。今後そのような尺度を開発し、母娘関係という特定の文脈で生じるジェンダー的な葛藤を検討していくことが必要であろう。その他、先行研究と本研究の結果に相違が生じた要因として評定方法の違いも考えられる。内閣府(2019)の結果は本人評定によるものだが、本調査では、娘が母の性役割観を評定するという他者評定の形式をとった。そのため、社会的望ましさのバイアスが軽減され、より実際の性役割態度が反映された可能性がある。母自身が考えるよりも、娘は母の性役割態度を伝統主義的と捉えていることが予想される。また、内閣府(2019)の調査では単一項目尺度を使用しており、本調査では多項目からなるSESRA-Sを使用しているという使用尺度の違いがある。さらに、内閣府(2019)では統計的な手続きを取らず、伝統的性役割分業に反対する割合を世代ごとに単純比較しているが、本調査では対応のあるt検定によって個人内比較を行ったという違いも存在する。今後、同一尺度を用いて母親の本人評定の結果と娘による評定の結果を比較するなど、上記の相違点を統制した上で改めて比較検討していく必要があるといえよう。

また、ジェンダー観の差異の程度は、母親の就業形態や母親との同居/別居によって異なるとはいえなかった。娘が母とのジェンダー観の差異を感じる程度を捉える際には、母親の属性や居住形態といった社会的要因だけでなく、意識要因や母娘のコミュニケーションのあり方等を考慮に入れていく必要があるといえる。

さらに、ジェンダー観の違いを感じる具体的な場面についてのKJ法の結果からは、母がさまざまな場面で自分のジェンダー観に基づいて娘に干渉していることが示された。「女性の生き方に関する価値観」においては、母によるジェンダー観の表出の場面では、女性は社会一般的にこうすべきといった価値観の表出以外に、娘の生き方に対して直接的に干渉してくるような場面が挙げられた。また、「ジェンダー・センシティブティの感度」の「ジェンダー的な期待」、「性に関連する事柄への敏感さ」においても、母自身の価値観の表明にとどまらず、その価値観に基づいて娘に干渉する場面がみられた。水本(2017)が指摘する母娘関係における娘の過剰適応的な心性を考慮すると、密着した母娘関係の中で母が自分のジェンダー観に基づいて娘に干渉してきた場合、娘は疑問を抱きつつも自分の内的な欲求を抑圧し、過剰適応的に母の価値観を反映させた振る舞いやライフコース選択をすることが考えられる。しかし、娘がこの

ような主体性のない選択を行うと、将来的に葛藤を生じさせることが予想される。また、母は「ジェンダー的な期待」として“女の子”らしくすることを求める一方で、「性に関する事柄への敏感さ」に見られる記述から、性的な成熟には否定的な姿勢も浮かがる。しかし、最終的には「女性の生き方に関する価値観」にあるように、娘が結婚、出産をすることを当然のように期待していることが示されている。Eliacheff & Heinich (2002) は、娘が〈女になること〉を邪魔する一方で促しもする母の両義性を指摘しているが、本研究においても、性的な事柄からは遠ざけ、娘に対して清純な“女の子”らしさを求めつつ、最終的には結婚や出産を期待する母の両義的態度が存在すると考えられる。

#### 娘のライフコース選択に対する両親の影響

KJ 法の結果より、ジェンダー観が深く関わると考えられる「理想の人生のタイプ」の選択については、娘は父親よりも母親からの影響が大きいと感じていることが示された。異性の父より同性の母の影響が強い背景には、期待されるライフコースや実際の労働環境などに依然として性別による違いが存在している日本社会の現状 (内閣府, 2013; 厚生労働省, 2019) があると考えられる。具体的な母からの影響を尋ねた自由記述の結果からも、ライフコースを考える上で娘は母をロールモデルとして見ていることが示された。ただし、ロールモデルとしての母のあり方は様々で、母を手本に母と同様の人生を想定する内容と、母を反面教師にし、同様の生き方を回避する内容が見られた。また、成功体験、失敗体験問わず、母の体験を踏まえてライフコースを考える姿勢も見られた。さらに、母と同様の人生を想定する回答の中には、積極的に母親をロールモデルとして自分の人生を主体的に考える姿勢と、漠然と母と同じ人生を想定する消極的で受身的な姿勢が見られ、青年期女性がライフコース選択をする際に母から受ける影響の大きさに加えて、影響の受け方の多様さが示されたといえる。

また、ジェンダー観の差異の程度と同様、娘のライフコース選択への影響の程度について、母親の就業形態による差は示されなかった。娘が母の価値観を受容・内在化し、それが娘のライフコース選択に影響を与える場合があることが示されたことから、母親の就業形態といった属性が娘のライフコース選択に直接的に影響するわけではなく、何らかの意識要因が関係することが考えられる。

#### 青年期女性の母娘関係についての捉え方

KJ 法の結果より、青年期の女性が母娘関係について「現在の関係性」「理想の関係性」のように友達のような関係として捉えている一方で、「関係性の中での気づき」に見られるように、適度に距離をおいた方がうまくいくと考えていることも示された。これは、娘は母との仲の良さをメリットであるとしながらも、距離感が近すぎると「娘の自立を妨げる」というデメリットが生じると考えているという先行研究の知見と一致する (市東, 2018)。

また、先行研究 (池田, 2018; 進藤・宮野, 2016) において指摘されていた「母親に対するアンビバレントな感情」が本研究の結果からも示唆された。娘は母親に感謝を感じながらも、同時にそれを負担に思う気持ちも生じ、相反する感情の間で葛藤を抱く場合があるといえる。母と適度な距離感を築いていくこと、母に対するアンビバレントな感情に対処していくことは、青年期女性が直面する課題の1つといえる。



## 母娘関係と父

これまで、母子の距離が近づくことによって父子の距離は相対的に遠くなることが指摘されてきたが(板倉・長谷川, 2012)、本研究においても同様の父母娘の関係の様相が示唆された。特に、母娘の親密な関係によって生じる父親の疎外感を娘自身がメタ的に認知している場合があることが示された点は興味深い。こうした娘の認知がどのように形成され、娘と父母との関わりがどのように影響していくのかという点については今後の検討が求められる。また、少数ではあるが、父親が母と娘の仲介役として機能しているとの回答も見られたことから、やはり母娘関係を捉えるにあたり父も含めた三者関係に着目することは重要と考えられる。

### 本研究の限界と今後の課題

本研究では、娘が母と異なるジェンダー観をもつことを実証できたことは成果である。さらに、それを具体的な場面も含めて提示することができた点は意義があるといえる。ただし、人間関係の中では必ず相互作用が生じるという前提に立つと、娘側の視点だけでなく、母が娘とのジェンダー観の違いをどう捉えているかを調査することも必要と考えられる。

また、本研究において、母娘のジェンダー観の差異や、母娘双方のジェンダー観の影響を受けると考えられる娘のライフコース選択には、母の属性といった社会的要因だけでなく、二者の関係性や母娘それぞれの心理的特性といった要因が関連している可能性が示唆された。しかし、本研究は質的研究の比重が大きく、各要因がどのように関連し合っているのかまで明らかにすることはできなかった。今後は、ジェンダー観と母娘関係に関する各要因との関連を量的にも検討していく必要があるといえる。さらに、母娘の親密さによって父が疎外感を感じていることや、父が母娘の仲介役として機能していることなど、母と娘の関係性には父も深く関与している可能性が示唆されたことから、今後母娘関係について研究するにあたり父の関わりも考慮に入れていくことは重要といえよう。

### <引用文献>

- 青野篤子・森永康子・土肥伊都子 (2019). ジェンダーの心理学 改訂版 ミネルヴァ書房
- 朝倉真弓・信田さよ子 (2016). 逃げたい娘 諦めない母 幻冬舎
- Chodorow, N. (1978). *The reproduction of mothering*. California: University of California Press. (チヨドロウ, N. 大塚光子・大内菅子 (共訳) (1996). 母親業の再生産 新曜社)
- Eliacheff, C., & Heinich, N. (2002). *MERES-FILLES: Une relation `à trois*. France: A LBIN MICHEL. (エリアシェフ, C., & エニック, N. 夏目幸子 (訳) (2005). だから母と娘はむずかしい 白水社)
- 橋本やよい (2000). 母親の心理療法—母と水子の物語 日本評論社, 131.
- 平石賢二 (2014). 親子関係 後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮 (編) 新・青年心理学ハンドブック pp.304-314 福村出版.
- 池田幸恭 (2018). 母親とのかかわり方からみた青年期における母親に対する感謝の心理状態の特徴 教育心理学研究, 66, 225-240.
- 板倉憲政・長谷川啓三 (2012). 青年期の親子関係と父母関係の関連性に関する基礎

- 研究 対人社会心理学研究, 12, 85-91.
- 柏木恵子 (1998). 社会変動と家族発達—子どもの価値・親の価値— 柏木恵子 (編) 結婚・家族の心理学—家族の発達・個人の発達— (pp.5-50) ミネルヴァ書房
- 川喜田二郎 (1967). 発想法—創造性開発のために— 中央公論社
- 厚生労働省 (2019). 男性の育児休暇の取得状況と取得促進のための取組について  
厚生労働省 Retrieved March 31, 2023 from <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/meeting/consortium/04/pdf/houkoku-2.pdf>
- 國吉知子 (2015). 母と娘—その光と闇— 女性学評論, 29, 23-49.
- 北村琴美 (2008). 過去および現在の母娘関係と成人女性の心理的適応性—愛着感情と抑うつ傾向、自尊感情との関連— 心理学研究, 79 (2), 116-124.
- 宮本みち子・岩上真珠・山田昌弘 (1997). 未婚化社会の親子関係—お金と愛情にみる家族のゆくえ— 有斐閣
- 水本深喜 (2017). 母娘関係における親密性再考—小高 恵氏・信太寿理氏のコメントに対するリプライ— 青年心理学研究, 28, 107-111.
- 水本深喜 (2018). 青年期後期の子の親との関係—精神的自立と親密性からみた父息子・父娘・母息子・母娘間差— 教育心理学研究, 66, 111-126.
- 水本深喜・山根律子 (2010). 青年期から成人期への移行期の女性における母親との距離の意味: 精神的自立・精神的適応との関連性から 発達心理学研究, 21, 254-265.
- 内閣府 (2013). 男女共同参画白書 平成 25 年度版 第 1 部 特集 第 27 図 ライフイベントによる女性の就業形態の変化 (平成 23 年) 男女共同参画局 Retrieved March 31, 2023 from [https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h25/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-27.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h25/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-27.html)
- 内閣府 (2019). 令和元年度男女共同参画社会に関する世論調査 家庭生活等に関する意識について 図 13 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識 内閣府大臣官房政府広報室 Retrieved March 31, 2023 from <https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-danjo/zh/z13.html>
- 信田さよ子 (2016). 母からの解放—娘たちの声は届くか 集英社.
- 信田さよ子 (2017). 母・娘・祖母が共存するために 朝日新聞出版.
- 佐々木誠 (2020). テキストの分類を補助するエクセルマクロ “Narabi” の開発 アルテス リベラレス (岩手大学人文社会科学部紀要), 107, 75-91.
- 進藤晴美・宮野素子 (2016). 母—娘における密着関係が青年女子の精神的健康に及ぼす影響—娘の側の申し訳なさの感情に着目して— 北海道心理学研究, 39, 74
- 市東加那 (2018). 女子大学生における母娘関係の捉え方 日本心理学会大会発表論文集, 82, 335.
- 鈴木淳子 (1994). 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成 心理学研究, 65, 34-41.
- 高木紀子・柏木恵子 (2000). 母親と娘の関係—夫との関係を中心に 発達研究, 15, 79-94.
- 高石浩一 (1996). 母を支える娘たち 日本評論社.
- 田口幸歩・成田好美 (2018). 女子大生の母娘関係が娘のアイデンティティ確立と自尊感情に与える影響 秋田県母性衛生学会雑誌, 32, 28-33.
- 渡邊恵子 (2003). 母親と娘はなぜ親密か—青年期から成人期にわたって— 柏木恵子・高木紀子 (編) 心理学とジェンダー: 学習と研究のために (pp.31-36) 有斐閣.